



コロナ禍以前の令和元年、生源寺境内は夏祭りの奉納盆踊りで賑わった。本年の開催に胸が高鳴る



発行所  
比叡山時報社  
〒520-0116 大津市坂本本町4220  
電話 077-578-0001  
振替 00970-2-9732  
宗教法人延暦寺事務所  
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会

会報

年度会費(3000円)中  
に会報(比叡山時報)  
購読料を含む。

令和5年比叡山から  
発信する言葉  
眞の心を開き発す



感謝の心を持ち「努力めよ努力めよ」

残暑お見舞い申し上げます。

比叡山麓坂本の生源寺でも伝教大師最澄さまのご誕生日の八月十八日と、その前日の十七日に「伝教大師御誕生会」が執り行われます。ここ三年は規模を縮小し法要のみを行っていましたが、本年はコロナ前のように「法要」と「坂本ふれあい夏祭り」を併せて行います。大勢の方々にお集まりいただき、大きな声で歌や踊りを楽しみ、お大師さまのご誕生をお祝い頂けるよう準備を進めています。

法要は、お盆の時季らしく回向法要をはじめ、音楽法要、御詠歌奉詠舞、祈願法要などが執り行われます。また、お大師さまのご誕生された生源寺だけではなく、坂本各地に残るお大師さまとご両親の遺跡においても報恩の法要が行われます。また、十八日の夕刻には、お大師さまのご誕生を祝う江州音頭にあわせ、盆踊りが浴衣姿の子どもたちや地元の方々により奉納されます。

盆踊りの起源は、平安時代中頃に空也上人によって始められた踊り念仏とされています。これが死者を供養する盂蘭盆会の行事と結びつき、精霊がこの世に戻るお盆にご先祖の霊をお迎えし供養する儀式となり、時代が下るにつれて宗教色を薄め、今の盆踊りの形になったといわれています。

生源寺の山門の前には「努力めよ努力めよ」と記された看板があります。

これはお大師さまの最期のお言葉(ご遺言)の一節です。全文は「我れ生まれてより以来(このかた)、口に虚言なく手に咎罰せず。今我が同法、童子を打たずんば我が為に大恩なり。努力めよ、努力めよ」というものです。お大師さまは弟子達に後進の育成指導にあたりくれぐれも暴言暴力がないように念を押し、幼い童子・弟子たち、子供の育成に慈悲の心をもって臨む大切さを述べておられます。

今の世の中、子が親を殺し、親が子を殺すといった恐ろしい事件が連日ニュースとして大きく取り上げられます。たとえそれがどのような事情であったとしても決して容認できることではありません。私たち自身が存在しているのは両親そしてご先祖のおかげであることを今一度思い起こさなければいけません。

そしてその恩に報いるためにも感謝の心をもって日々の生活を後悔のないように過ごし、世の中を明るく照らしていく事が私たちのつとめであり、お大師さまのご意思でありましょう。

お大師さまの御誕生会を迎えるにあたり、お大師さまが幼い頃まだ広野さまと呼ばれていた頃の大師幼形像の前で次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い合掌する皆様、お子様たちの姿を楽しみにお待ちしております。

残暑厳しき折、皆様御身大切にお過ごし下さいませ。

